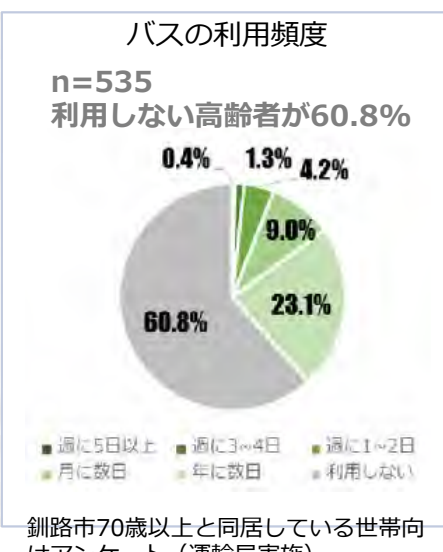
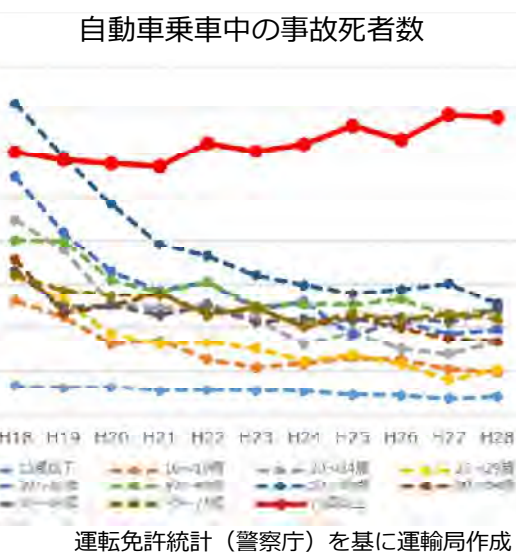
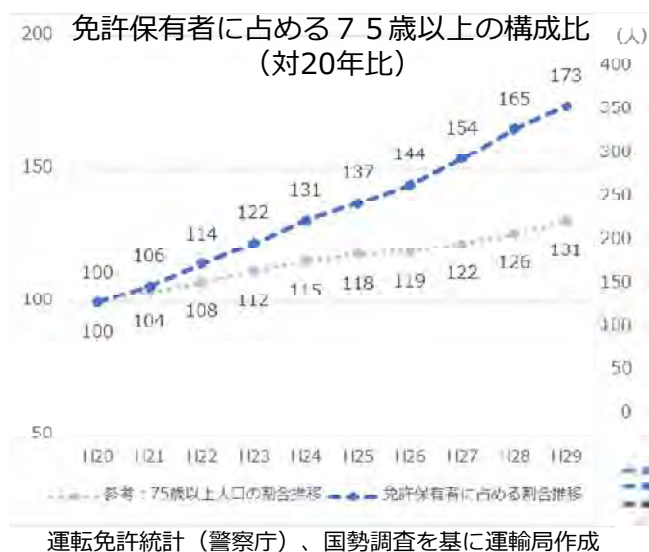


【資料4】 高齢者を対象としたモビリティ・マネジメントの取り組み

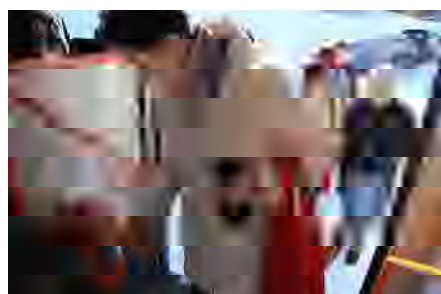
- 75歳以上の運転免許保有者の増加を背景として、交通死亡事故死者数に占める75歳以上の割合が増加。
- 昨年3月には75歳以上運転者の免許更新時に認知機能検査を義務付ける等の改正道路交通法が施行され、運転免許を返納される方も増加。
- 免許返納後の生活への不安を感じる一方で公共交通機関の利用頻度が極めて低い方も多く、まずは使ってもらうことで利便性を再認識してもらうことが必要。



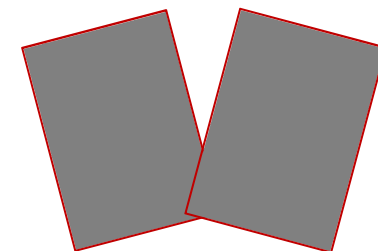
○釧路市において高齢者を対象としたモビリティ・マネジメント（※）を実施（平成29年度）



高齢者と大学生でバス利用をテーマとしたワークショップを実施



公共交通利用を考えるきっかけを提供するアンケート調査の実施



高齢者をターゲットとした情報提供冊子

高齢者を対象としたモビリティ・マネジメントの取り組み

- ワークショップの参加者（65歳から89歳の老人クラブ会員60名）からは、「路線バスの利用意識が高まった」（84%）、「自家用車利用を控えたい」（28%）等の意見が聞かれた。ワークショップの2か月後に実施した調査でも7%の人から自家用車利用が減ったとの結果が得られた。
- 80歳を超えても運転をしたいと考える人が3/4以上。運転に自信がない・上手だと思わないと答える数が高齢者本人と家族で倍近い開きがある。
- 家族による送迎を頼みづらいつと感じる高齢者も約4割となっており公共交通に求められる役割は大きい。
- 70歳以上の本人と同居世帯向けアンケート調査（平成30年2月釧路市において運輸局実施）

※本人からの回答

【いつまで運転したいか】

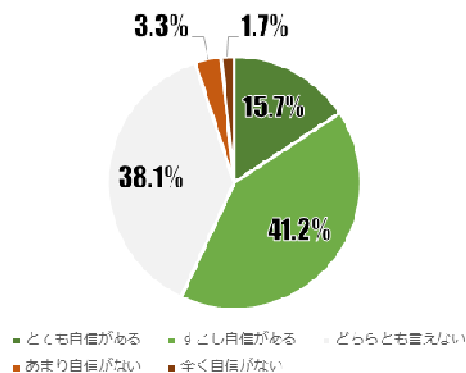
n=378
99%が75歳以上と回答



※本人からの回答

【運転に自信があるか】

n=420
自信なしは5%



※家族からの回答

【運転は上手だと思うか】

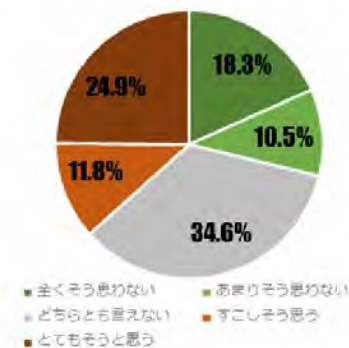
n=380
上手だと思わないは9.7%



※本人からの回答

【送迎は頼みづらいか】

n=535
頼みづらいが36%以上



○今後の展開

- ・各自治体に対し、地域公共交通網形成計画作成時に本調査の趣旨を踏まえ配慮するよう啓蒙する。
- ・本調査結果を基に作成した、情報提供冊子の活用を推進する。

（※）モビリティ・マネジメントとは：環境や健康などに配慮した交通行動を大規模かつ個別的に呼びかけていくこと等で「過度に自動車に頼る状態」から、「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に（＝かしこく）利用する状態」へと少しずつ変えていく取り組み。